

事業所における自己評価結果(公表)

討議年月日:令和 4年 3月 20日

公表:令和 4年 3月 31日

事業所名 重症児デイNEST

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	14		その日の利用児様の人数に合わせ、活動しやすいスペースを工夫しています	
	2 職員の配置数は適切である	14		必要な資格者を配置し、ほぼ1対1で対応しています 毎日利用児様の人数に合わせ、配置されています	有資格者、職員の数など配置基準を満たしています できる限り、1対1で対応できるように配置しています
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	14		目の届く空間で、安全を第一に過ごせるよう配慮しています 車椅子が通りやすい様に適した環境になっています もう少し、余計なものを整理すると、よりよい環境になると思います	全てのフロアがバリアフリーになっており、車椅子や歩行できる利用児様も移動しやすくなっています 個々の身体状態に違いがある為、利用児様が共に安全に過ごせるような環境を整えています
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	14		施設内の掃除、消毒、換気、空気清浄機の使用など、安全かつ清潔に過ごせる空間になっています 活動室の配置を変えたことで、活動内容に合わせたスペースの確保ができています	
業務改善	5 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	14		運営会議では、多職種で意見を出し合い業務改善に努めています	職員は入職当初、利用児様との関わりを多くとってもらっており、徐々に業務内容を増やしています 運営会議などで、業務方法や業務の簡素化、改善案など意見を出し合い業務改善に努めます 参加できなかったスタッフと議事録を用いて情報を伝え、情報共有に努めていきます
	6 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等々の意向等を把握し、業務改善につなげている	14		年に1度、保護者様へ評価表の記載をお願いします	年一回、保護者様に評価表の記載を依頼し、貴重なご意見を頂く事でより質の高い施設にしていけるよう改善に努めます +G10-G11
	7 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	14		年に1度、保護者様へ評価表の記載をお願いします、結果をHPで公開しています 評価表の結果を基に、職員で検討を行い業務改善につなげています	年1回、職員が評価表の記載を行い職員の障害児福祉に対する知識も確認しています 保護者様の評価、ご意見を参考にしながら職員の知識を高められる様、研修の機会を設け改善に努めます
	8 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	4	10	外部評価は行っていないが、他事業所や相談員、市役所などの意見を頂き、業務改善につなげています	必要であれば、第三者による外部評価を導入し業務改善を図ります
	9 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	12	2	利用児様が使っている医療機器メーカーや職員が知りたい内容、疑問に思っている事を出し合い、研修内容を検討し積極的に研修の機会をつくってくれています 勤務時間外に行われる外部研修が多く、参加が難しいことがある	社内研修の充実を図っていくことが課題です 職員の専門性を高めるため、研修への参加や伝達講習の機会を増やせるよう調整を行い、自己啓発・人材育成に努めます
適切な 支援の 提供	10 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	14		年3回の保護者面談などで、児の成長や状況、ニーズなどを把握し、職員の担当業務をアセスメントし計画を作成しています 保護者様の思いや意見を取り入れ、日頃の関わりを基に計画を作成しています	利用児様の状況や成長発達に合わせた支援計画を作成し、保護者様にわかりやすい説明を心掛けています
	11 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	14	3	利用児様により身体状態や医療的ケアが大きく違い、個々に合わせた内容を取り入れ、どの職員にもわかりやすくなっています 利用児様が個々に毎日行うToDoリストを作成し、職員にもわかりやすいです	一定のアセスメントシートを使用しているが、医療的ケアなど利用児様の個々の状態に合わせ使い分けています
	12 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	14		保護者面談で個々の状況やニーズを把握し、職員全員で意見交換を行い計画を作成しています 日々課題に目を向け、より良い支援ができるよう支援計画は具体的な内容で記載し、保護者様やどの職員にも伝わる様心掛けています	年3回、児発管を中心に保護者様との面談を行い、モニタリング結果に基づき、担当者会議で職員間で意見交換を行い、アセスメント内容から支援計画を作成しています
	13 児童発達支援計画に沿った支援が行われている	14		通所記録と支援計画を一緒に置く事で、職員が日々支援内容を意識することができ、情報共有に努めています	
	14 活動プログラムの立案をチームで行っている	14		保育士が中心ではあるが、職員全体で意見を出し合い活動プログラムの立案をしています 日々の活動内容は保育士が中心、ToDoリストの内容は担当者会議でみんなで考えています	保育士だけでなく、職員全員が活動への意見を積極的に発信していけるよう意識を高める事が課題です
	15 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	14		好きな遊び、活動が個々に違う為、興味が広がる様、様々なプログラムを考えています 季節や個々の状況に合わせ、活動内容にねらいを立て固定化しないよう工夫しています 季節や社会的プームも取り入れ、楽しめています	利用児様が色々な活動を経験し、興味や関心を広げられる様、季節を感じる制作や体を動かす遊びなどを行っています 活動プログラムが固定化しないよう、保育士を中心に職員の見取り入れながら内容を検討しています
	16 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	14		個別活動では感覚が刺激されるよう触れ合いを大切に、集団活動ではお友達と一緒に参加し、楽しい雰囲気を感じられる様に心掛け支援しています	利用児様の年齢や身体状況に合わせた活動方法を検討し、支援計画に取り入れています
17 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	11	3	朝、その日の活動内容や職員の役割について把握できる様、ホワイトボードを使用しています 打ち合わせが不十分な時があり、お迎え時間の変更が職員に伝わらないことがあった	その日の全体の流れや役割分担・活動内容・活動のわらいなどをボード化しており、出勤後職員が確認し必要時は変更を行っています 職員の出勤時間がそれぞれ異なる為、職員が個々に確認をとり情報共有に努めています	

	18	支援終了後は、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	5	9	多機能型施設であり、通所時間が異なる事や臨時職員も多いため、支援終了後に職員全員で振り返りをすることは難しいです 活動報告を作成したり、職員連絡用のノートを活用、口頭などで情報共有に努めています	日々の活動後、活動報告書を作成し、支援の振り返りを行っています 利用児様それぞれの反応を振り返る事で、次回の活動方法を計画、修正することができ、より良い支援に繋げられるように努めています
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	13	1	通所記録に体調の変化・支援内容や児の反応など細かく記載しています 通所記録・活動報告・職員用連絡ノートを活用して、支援の検証・改善の振り返りができるように努めています	通所記録は、ケアや活動後にその都度記載するを徹底し、記入漏れを無くすと共に、通所記録・活動記録・職員用ノートから支援の振り返りを行い、より良い支援に繋げられる様努めています
	20	定期的なモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	14	1	年3回、職員間で支援計画についての検討と情報共有をしています	児発管を中心に年3回保護者面談を行い、モニタリング結果を基に職員間で意見交換を行い、支援計画の評価・修正を行っています
関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	14	1	代表及び児発管が必要に応じて、参加して利用開始時や利用児様の状況の変化などの際は、相談員に声をかけ担当者会議の開催を提案しています	代表・児発管が担当者会議に参加し、利用児様の様子などを他事業所と情報共有すると共に、統一した支援ができるよう連携を図っています
	22	母子保健や子ども子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	14	1	市役所の子供課の方などと連携し、利用児様の情報共有をしています	利用児様が必要な支援を受けられるように、関係機関と連絡を取りスムーズに事業所の利用開始や変更ができるよう連携しています
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	14	1	支援学校の入学や卒業後の進路について、学校・市役所・相談員などと連携し、利用児様の情報共有に努めています	利用児様の情報共有ができるよう、必要時は地域の市役所・医療機関・相談員などと連携し支援を行っています
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	14	1	主治医に看護指示書の記載を依頼し、急変時の対応や搬送の目安などを把握し、体制を整えています 「へいしゆうくんネット」に登録し、病院・訪問などと情報共有し支援体制を整えています	利用児様の主治医に看護指示書を依頼し、保護者様へ確認のもと、指示書に基づいたケア、緊急時の対応などを職員に周知し、病院・訪問との連携を図れるよう努めています
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚園部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	6	8	来年度、就学予定の利用児様の情報を必要な機関と連携し、情報共有しながら進めている	今後、取り組むべき課題です 利用児様の成長に合わせて、情報共有や相互理解をしながら支援学校への移行支援を進めていけるよう努めます
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	11	3	今後、就学予定の利用児様の情報を必要な機関と連携し、情報共有しながら進めている	今後、取り組むべき課題です 利用児様の成長に合わせて、情報共有や相互理解をしながら支援学校への移行支援を進めていけるよう努めます
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	12	2	相談員や児が併用している施設の職員などがテイでの様子を覗いてくれたり、電話連絡などで連携を図っています 研修の際に交流を行い、情報交換する中で助言を頂いています	それぞれの事業所・施設に特色があり、研修会に参加したり施設見学をさせて頂く事で職員の知識を深め、より良い事業所にできる様参考にさせて頂いています
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	14	1	土曜日や長期休みなど、職員の子供達と交流する機会はあるが、地域の子供達との交流はありません コロナ禍では外との交流は難しく課題です	現在は積極的な交流は行っていませんが、必要に応じて地域の行事に参加し子供達との交流も検討していきます コロナ禍であり、外との交流については課題です
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども子育て会議等へ積極的に参加している	10	4	年5回代表・児発管が事業所連絡会に参加し、情報交換の機会を設けています	事業所連絡会に参加し、福祉行政の地域課題について検討しています 今年度はコロナ禍の市内施設の対応を振り返り、色々な課題を次につなげられるよう情報交換しました
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	14	1	日々の通所記録や送迎時に保護者様に児の様子を伝えるとともに、定期的な面談を実施し共通理解できる様、保護者様とコミュニケーションを図っています	日々の記録や送迎時、面談などで保護者様と積極的にコミュニケーションを図り、利用児様の成長発達への情報を共有すると共に、活動へのご理解、ご協力を頂けるよう努めています
保護者への説明責任等	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレントトレーニング等)の支援を行っている	3	11	ペアレントの研修の機会が少なく、参加できていない 保護者様からの相談や悩みなどは、その都度適切に対応できるよう努めています 重症児や医療的ケア児に向けたペアレントの研修に参加していきたいです	現在、家族支援プログラムとしては行う事ができていませんが、保護者様の相談や悩みなどを適切に対応できるよう努めています 保護者様、職員向けの研修の機会を設け、職員がペアレントの視点を持って保護者様からの相談に応じていく事が課題です
	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	13	1	契約時に書面に沿って説明を行っています 請求書・領収書の発行を行い、保護者様のもわかりやすくなっていると思います 随時、必要な内容や不明な点は説明するように努めています	契約時、管理者が保護者様に分かりやすく伝えられる様心掛け、説明を行っています 内容変更などの際は随時説明を行い、保護者様が理解できるよう努めています
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	14	1	年3回の面談と、状況の変更などの際に随時面談を行い、目標の評価や修正について保護者の意向に添えるよう修正し、同意を得ています	年3回、保護者様との面談を行い、児発管を中心に職員間で意見交換を行い、その内容を基に支援計画を作成しています 支援計画の作成後は保護者様の確認・修正を行い、同意を頂いた上で支援計画に沿った支援を提供しています
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	14	1	面談や送迎時など、相談しやすい雰囲気をつくり、話に耳を傾けるよう心掛けています	信頼関係を築き、保護者様が悩みや相談事を職員に発信して頂ける様努めています
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	7	7	コロナで保護者様に施設のイベントに参加して頂き、利用児様のテイでの様子を見て頂きながら、保護者同士の交流の場を設けることができなかった	保護者イベントを数回企画しましたが、今年度はコロナ感染拡大のため利用児様だけでイベントを行いました 今後も積極的に親子イベントを計画し、保護者様同士の交流の機会がつけられるよう努めていきます
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	14	1	電話やLINE、面談にて迅速かつ適切に対応できるよう努めています 職員だけで解決できない相談などは、必ず管理者へ報告し適切に対応できるよう努めています	保護者様からの連絡に、できる限り迅速に対応できるよう努めています
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	14	1	月に1回会報を発行し、日頃の活動の様子や活動予定などをわかりやすく掲載しています 活動時などの写真を積極的に撮り、写真を含め反応や様子を保護者様に伝えています	引き続き、保護者様に向けて、活動の様子や活動の予定、連絡事項などを中心とした会報を月に1回発行していく予定です
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	14	1	個人情報記載された書類は、情報が漏れる事が無いよう鍵付きのキャビネットに厳重に保管しています 利用児様の写真や、TSUBAME通信やHPなどに載せる際は、必ず保護者様の同意を得ています	個人情報記載された書類などは、鍵付きのキャビネットに保管しています HPなどに掲載する写真などについては、保護者様の同意のもと掲載させて頂いています
	39	障がいのない子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	14	1	介助をする際は児に合わせ、選択肢をつくる事、返事をゆっくり待つなど反応を確認しながら意思疎通が図れるよう配慮しています 利用児様のサインをよく理解し、共有しながらコミュニケーションが取れるよう努めています	利用児様の返事や意思の表出方法がそれぞれ違う為、支援計画に取り上げながら利用児が発信するサインを読み取れるように日々の関わりの中で意識して支援しています

	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	1	13	現在行えていません 施設周辺を散歩する際は、地域の方に積極的に挨拶をして、施設や利用児様・職員を覚えて頂けるように意識しています	今後、施設や利用児様の事を地域の方々に知って頂き、災害の際などに支援頂ける関係をつくる事が今後の課題です
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	11	3	医師の指示書に基づき、個々に合わせた緊急時対応マニュアルを作成しています 他マニュアルについては順次作成中であり、職員・保護者へのマニュアルの周知をする事も今後の課題です 勉強会や緊急時対応の訓練は行っています	緊急時と感染症のマニュアルは作成しており、職員や保護者様に周知する事が今後の課題です 防犯に対してはセキュリティー会社に依頼をしていますが、マニュアルは作成できておらず、今後作成し保護者様・職員に周知していきます
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	14		定期的に避難訓練を行い、対応の確認を行っている 突然の訓練は、問題点が明確に見えるので続けていきたい 災害訓練を日常生活の中に取り入れ、反省点は即時改善しています 面談の際や送迎時、通所記録から最近の様子などについて確認している 予防接種の状況については春に把握している	半年に一回+適宜、避難訓練を行っています 災害時に備え、玄関に備品を設置し利用児様に必要な医療ケア物品や薬などを2日分、施設内で保管させて頂いています
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	14		面談の際や送迎時、通所記録から最近の様子などについて確認している 予防接種の状況については春に把握している	面談時や保護者様からの通所記録の情報などから、利用児様のその日の体調や発作の状況などを適宜確認しています
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	13	1	保護者様に確認の上、おやつ提供や活動（おやつ作り）を行っています	医師の指示書を提出頂いており、面談の際などで最近のアレルギーの様子や対応についてなど保護者様に確認しています 安全を考慮し、医師の指示書に基づいた対応が取れるよう努めます
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	14		事例があった場合はヒヤリハット報告書を作成し、職員全員で会議を行い情報を共有し再発防止に努めています ヒヤリハット報告書は、目にしやすい場所に置かれ全職員が情報を共有しやすいようにされている	事例があった場合は、迅速に全職員で会議を行い、職員が情報共有することで再発防止に努めています
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	6	8	外部研修の参加はできたが、内容を全職員に伝え虐待への意識を高める事が課題です	マニュアルの制作や職員研修の準備中です 研修への参加の機会を増やせるよう調整を行い、職員が交代で研修に参加し自己啓発・人材育成に努めます
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	4	10	現在、拘束が必要な対象の児がいません 5つの基本的ケアを大切に関わっています やむを得ず拘束が必要な際は、児と保護者に十分な説明を行い適切な対応をしていきます	拘束に関しては、できる限り代替性がないか慎重に検討していきます やむを得ず、拘束が必要な場合には利用児様・ご家族様に事前に十分な説明を行い、支援計画に取り入れた上で適切に対応していきます

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価です。